



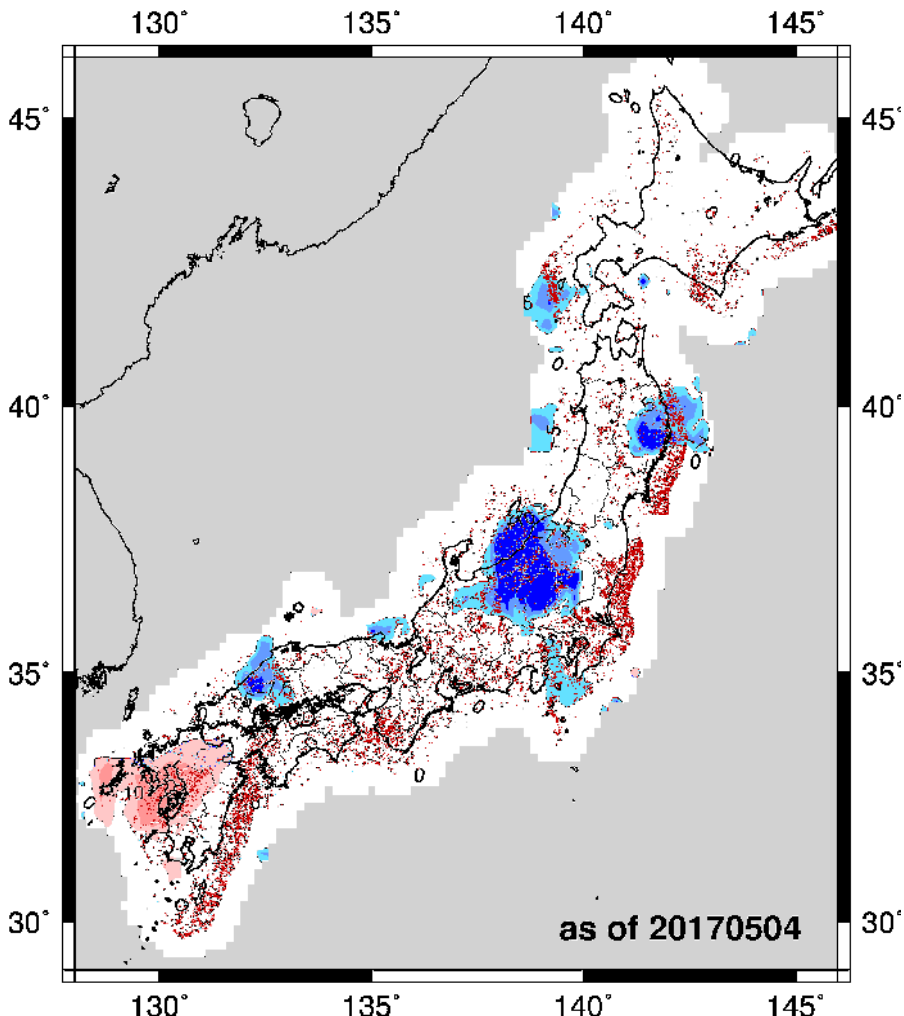
日本列島陸域の地下天気図®

これまでのニュースレターで、日本列島陸域については、北信越地方、瀬戸内海を含む中国地方西部、そして岩手県を中心とした地震活動静穏化の異常が顕著な異常として認識できるという事を報告してまいりました。

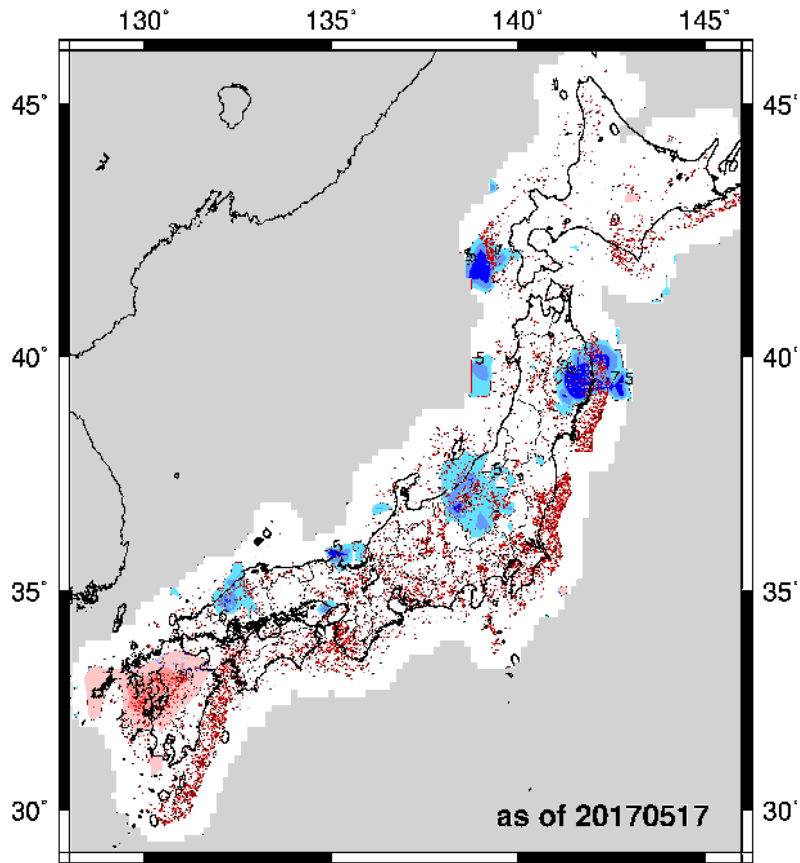
最新の解析で、ここ1ヶ月半の間はかなり状況が変化している事がわかりました。地下天気図解析では、これまでの経験則として、「異常が消えてから地震が発生する可能性が高い」事がわかっています。そして新潟県を中心とした北信越地域の静穏化異常が消えかかっている事が今回の解析で判明しました。また中国地方の異常も弱まってきているようです。また岩手県を中心とした異常はさらに大きく顕著になっている事も確認できました。

また地下天気図のもう一つの特徴として、これも経験則ですが、異常の中心で地震が発生するより、(異常が最大となった時の) 異常の周辺部で地震の発生する可能性が高い事もわかっています。

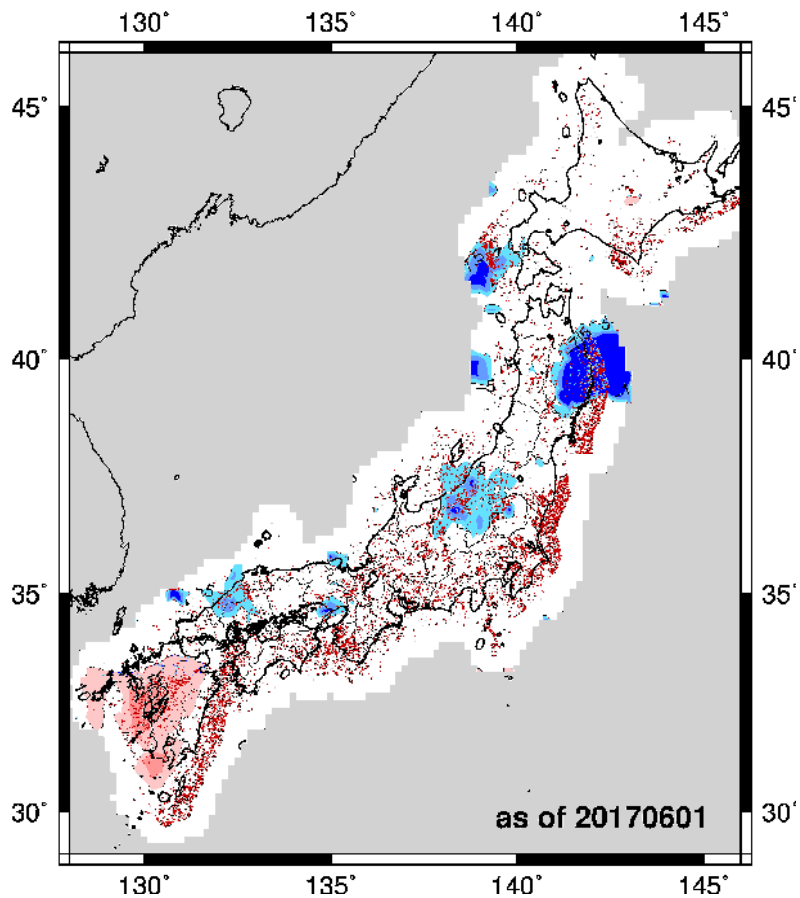
以下に前回のニュースレターでお示した5月4日の地下天気図を再掲するとともに、5月17日、6月1日そして最新の6月17日時点の地下天気図をお示ししたいと思います。



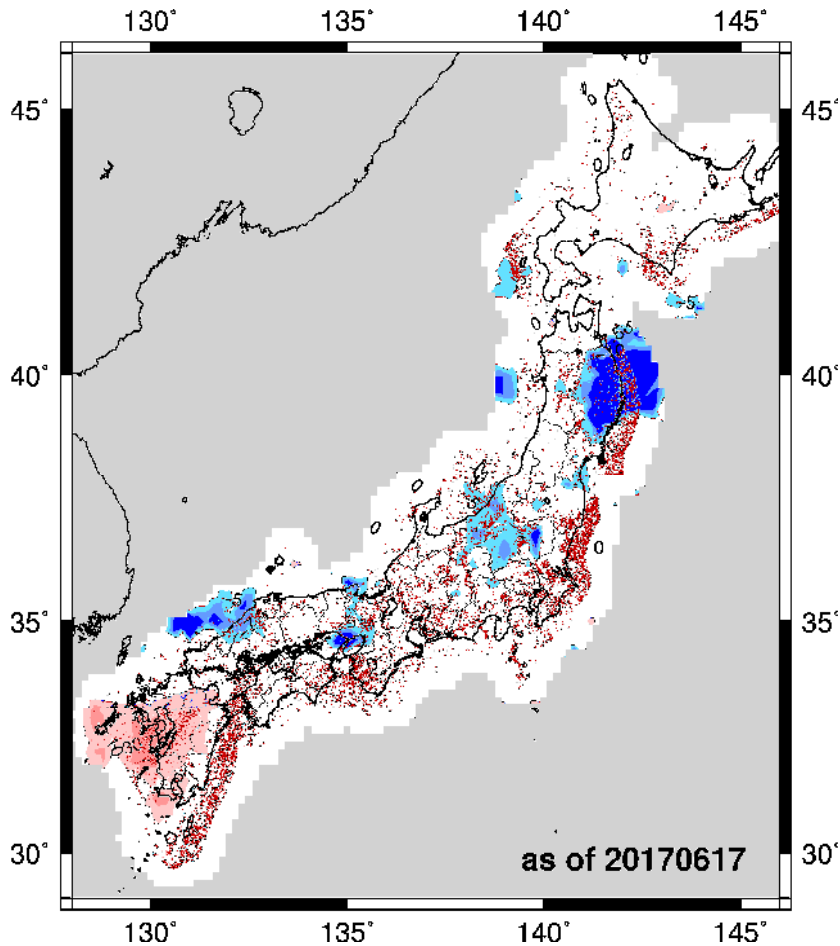
5月4日時点の地下天気図(再掲)。北信越の異常が顕著であった。



1ヶ月前の5月17日時点の地下天気図



6月1日時点の地下天気図



最新の6月17日時点の地下天気図。北信越の異常が小さくなっている。

従ってこれまで述べましたように、岩手県（およびその沖合）地域の異常につきましては、まだ異常が顕著に続いている事から、地震が発生するとしてもその時期はもう少し先であると推測できます。右図は地下天気図解析による次に内陸で被害地震が発生する可能性が高いと思われる地域（黄色いサークル）をポンチ絵として示したものです。

